

「今日は何の日？」

ルカによる福音書 4:14-21（新共同訳）

I 導入部

- みなさん、おはようございます。最初にお祈りをします。
- 本日の説教のタイトルは、「今日は何の日？」という非常にシンプルなタイトルです。
- 「今日は何の日？」という説教題を先週掲げたところ、なんと今日が誕生日の方がいらっしゃるようですが、言っていていいですかと聞いたら言わないで欲しいとのことなので、ぜひ後でお祝いをしていただきたいと思います。
- ちなみに、「今日は何の日？」で検索しますと、1月27日は、明治時代に国旗が日の丸に決まった日だそうです。あとは、日本からの最初のハワイ移民が出発した日だそうです。あとは、我が母校慶應義塾が大学を設置した日だそうです！また、ベトナム戦争が終わった日だそうです。曙が横綱になった日だそうです。
- 日（日にち）というのは不思議なものです。1日は誰にとっても平等の、同じ24時間です。でも、全く違う日にもなる。
- 日々を過ごしていると、一見、毎日は、同じようにも見える。毎日毎日同じことの繰り返しにも見えることがある。
- 礼拝もそうだと思うのです。特別なイベントの日はともかく、毎週毎週同じことの繰り返しにも見える。私も、だいぶ青葉台教会の礼拝に慣れて来まして、ぼけ一っと礼拝に出てしまうこともあるのですが、時に、全く違う日曜日になることがある。今日はどんな日になるのか、期待して、楽しみにしていますが、
- 本日読まれた箇所において、ナザレの人々は、いつものように、礼拝に来ました。別にそんなに期待していなかったかもしれない。でもそこにイエスさまが登場し、彼らの世界は、彼らにとっての「今日」は、全く異なるものとなっていくのです。
- そのストーリーを共に確認し、共にイエスさまを礼拝していきたいと思います。

II 本論部

一. 洗礼から試練、使命へ

- ルカの福音書は、イエスさまの誕生と、子ども時代、少年時代を描いている唯一の福音書です。イエスさまの誕生のストーリーはマタイの福音書にも書かれていますが、ルカの福音書に、大人になってからのイエスさまが登場するのは、3章になってからです。
- 本日の箇所の少し前の3章の21、22節で、イエスさまは、バプテスマのヨハネから洗礼を受けられます。イエスさまは、私たちの模範として、洗礼を受けられた。そうすると、聖霊さまが鳩のように目に見える姿で降ってきた。そして、その聖霊さまは、4章1節によると、イエスさまを荒野に導くんですね。荒野で、誘惑に、試練に遭わせる。
- これは、私たちの経験でもあると思います。洗礼後こそ、いろんな誘惑や試練があるものです。だからこそ、私たちは、最近洗礼を受けられた方々のために祈っていきたくと思いますが、誘惑に打ち勝った、誘惑を退けられたイエスさまを、聖霊さまは今度は宣教活動に向かわせます。
- これも私たちも同じですね、洗礼を受け、誘惑を経験する。でもその先に、神さまは使命を与えられる。
- それでは、もう一度14節からをご覧ください。

4:14 イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。

4:15 イエスは諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた。

- ここで言う「会堂」というのは、シナゴグとも言われますが、現在の教会のような場所であり、ユダヤ人にとっての礼拝の場所です。
- イエスさまは、故郷のガリラヤ地方に戻り、いろいろな会堂を周り、聖書を教えられた。人々は感動して、イエスさまを尊敬し、ほめたとあります。
- そんなある日、イエスさまが、ご自分が生まれ育ったナザレの会堂に来られる。キリスト教会では、自分が生まれ育った教会のことを「母教会」と言いますが、私にも「母教会」が神戸にあります。母教会っていうのは小さい頃から知っている人が山ほどいるので、独特の緊張感があるものです。きっと、この教会出身で牧師になられた先生方にも、分かっていたかと思えますし、いつかこの教会のユースが、牧師になってここで説教する日が来たら、そんな日が来たら泣いてしまいそうですが、緊張すると思うのです。
- ナザレは小さな村でしたから、もう全員が小さい頃からイエスさまのことを知っていたことでしょう。そこでイエスさまは聖書を朗読しようとしてお立ちになったとあります。
- 当時のシナゴグ、会堂では、成人男性であれば、希望者は誰でも説教ができたそうです。それは全員がめっちゃ聖書を学んでいるからできることですが、この日イエスさまは、預言者イザヤの書を開いた。
- そして、実は、ここに書いてあるのは、旧約聖書のイザヤ書 61 章 1、2 節そのままではありません。この当時は、旧約聖書を読むときに、書いてあるのはヘブライ語で、話し言葉はアラム語だったと言われるのですが、翻訳しながら、自由に言い換えたり、省略したりしていたそうなんです。
- つまり、この朗読自体が、すでに説教であると言えるわけですが、このように語るのです。18 節、19 節をお読みします。

4:18 「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、
4:19 主の恵みの年を告げるためである。」

二. イエスさまの使命

- イエスさまは、明らかに、これをご自分のこととして読んでいます。これはめちゃくちゃ深い言葉で、準備しながら一人で興奮していたのですが、
- 聖霊が、イエスさまの上におられる。ルカの福音書には、イエスさまは聖霊によってマリアのお腹の中に宿られ、洗礼においても聖霊の力を受けたことがここまで語られています。
- それは「貧しい人に福音を告げ知らせるため」であったのだと、イエスさまはイザヤ書を根拠に語っていくのです。
- では、ここで言う「貧しい人」とは誰のことなのでしょうか？
- お金がない人のことでしょうか？もちろんそうでしょう。あるいは、心の貧しい人のことでしょうか？そう考えると、ああ私のために来てくれたんだなあと思いますが、もちろんそれも含むでしょう。
- しかし、実は、この言葉は、この当時、もっと広い意味のある言葉でした。
- この当時、「貧しい人」とは、例えば教育を受けていない人、地位が低い人、仕事のない人、お金の無い人、病気の人、罪を、特に性的な罪を犯している人、例えば取税人がそうでしたが、ちょっとそれどうなの？っていう仕事をしている人、宗教的にきよくないとみなされている人、家族やコミュニティから見捨てられ、排除されている人々を指していました。
- その意味で、続いて書かれてある「捕らわれている人」、「目の見えない人」、「圧迫されている人」を含む言葉なのです。
- 「捕らわれている人」。

- もちろん犯罪を犯し、捕まった人もそうですし、当時のガリラヤは、ローマ帝国の植民地でしたから、ローマに逆らったということで、政治的・宗教的迫害のゆえに捕まっていた人々もいたでしょう。あるいは、何かに捕らわれてしまっている。依存してしまっている。
- 現代でも様々な依存症は問題になっています。ギャンブル、アルコール、ポルノ、薬物、あるいはスマホも、依存症があるそうです。そのような意味で「捕らわれている人」を含んでいる。
- 「目の見えない人」。
- この当時は、目が見えない人々を始めとする病や障がいを持っている人々への心ない差別は現代よりももっと多かったと思われます。
- そして、もちろん、もっと霊的な意味で、例えば日々の忙しさの中で、何が人生において本当に大切なものであるかということが見えなくなっている人々も含まれる。
- 「**圧迫されている人**」。
- 支配者であるローマ帝国に、差別され、重い税金を課せられ、苦しみのなかにあつた人々。私たちも理由は違えど、苦しみを経験することがあるでしょう。
- そのような人々に、「**貧しい人**」に、「福音」を告げ知らせること、それがご自分の使命であるのだとイエスさまは語っているわけです。
- ここで言う「福音」、良い知らせとは何でしょうか。それは、もちろん罪赦されたゆえに、死んだ後にも安心できることも当然含みますが、ルカの福音書においては、この地上で、人生が実際に変えることも含まれている。
- この後に続くルカの福音書のストーリーにおいて、イエスさまは、実際に病気を治したり、食べ物を与えたり、差別され、排除されていた人々を共同体のなかに引き戻したり、罪から解放したり、人々の生き方を実際に変えていく。
- 「**主の恵みの年**」、これは旧約聖書に登場する「ヨベルの年」という、イスラエルの律法においては50年に1度もたなければならぬとする、借金が免除され、土地がもとの所有者に戻る年で、要は、徹底的な解放を意味していました。喜びに満ちた、自由が与えられる、素晴らしい時代がやってきたのだ。
- そのような「福音」を、「**貧しい人々**」に告げ知らせることが、「**貧しい人々**」の人生を変え、解放することこそが、わたしの使命なのだとイエスさまは語っているのです。

三. 今日実現した? : ことばの力

- そのようにイザヤ書を読んだ、説教した後、イエスさまは、巻物を巻いて、係の者に返して席に座られました。そして、不思議なことを仰られました。21節です。

4:21そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。

- 今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した。そのように聞いて、不思議に思われないでしょうか。
- 私だったらこう反応すると思います。いやいやいや、「今日実現した?」「何が?」「今日実現した」と言いますが、何が実現したんですか?
- 例えば、その場所に、罪をやめられない人がいるとします。病に苦しんでいる人がいるとする。悩みを抱えている人がいるとする。状況はまだ変わっていない。それなのに、イエスさまの言葉を聞いただけなのに、何が実現したと言うのですか?
- 当然のことながら、まだこのときには、イエスさまは十字架にかかっていません。復活もまだです。もっと言うならば、ルカの福音書に書いてある限りまだ誰の病気も癒していません。
- それなのに、イエスさまの言葉を聞いただけなのに、言葉だけなのに、何が実現したと言うのでしょうか。

- 説教というのは、不思議な営みだと思います。私も説教ということをしてから、多少長くなりましたが、いつも説教をしながら、不思議だなあと考えています。
- 説教って、当然ですが、言葉だけじゃないですか。たまに視覚的なものを使うこともありますが、基本的に言葉だけですよね。
- でも、不思議なことに、説教は何かを起こすんです。私は、子どもの頃、説教は基本的に聞いていませんでした。以前もお話ししましたが、中高生の頃は、聖書のお話を真面目に聞かないことがかっこいいと思っていました。しかし、大学生になって、本当にイエスさまに出会って、変えられてから、説教を真面目に聞き始めた。そしたら、なかなか面白いんですね。すごい教えられるんですよ。
- もちろん、キャンプとか行くと、すごい感動的な説教を聞くこともありますが、普段の牧師先生の、忠実に、聖書をコツコツと解き明かしてくださる説教を通して、自分は本当にクリスチャンとして成熟させられたと思うんですね。
- そして、私も、説教をするようになって、本当に驚いたのが、私なんかの説教を聞いて、イエスさまを信じる決心をする人が現れたんです。あるいは、これは私自身も経験したのですが、説教を通して、いつもではありませんが、時に、状況は変わっていないのに、慰められたり、励まされたり、癒されたりする。
- それはもちろん、話術の問題ではありません。もちろん少しでも伝わるように努力はしているつもりですが、それだけでは何も起こらない。説教は、聖書を語ることです。聖書に力があるから、聖書が語られるとき、何かが起こる。
- イエスさまは、まだこの時点では、言葉だけでした。しかし、それだけでも十分だった。言葉だけであつたとしても、人々の人生を変えることができた。
- そして、イエスさまの言葉は絶対に無駄にならない。イザヤ書の言葉が、イエスさまがこの地上に来られることで実現したように、このときイエスさまが語ったことは、イエスさまの地上でのご生涯において実現していく。
- この後も、イエスさまは、人々の人生を次々と変えていきました。そして最後には、私たちの罪を背負って十字架にかかり、復活をして、私たちが永遠に生きることができる道を開いた。聖霊さまを注がれ、終わりまで共に歩んでください。
- 終わりの日には、イエスさまがもう一度来られ、私たちはよみがえり、完全なからだを与えられ、罪から解放され、愛と正義に満ちた新しい天と地が実現する。
- 「今日」、あなたがたこのことばを耳にしたときに、それは実現したのだ。まだ目には見えないかもしれない。でも、あなたはすでにそれを耳にした。あなたが耳にしたことばは、あなたを変える。あなたの人生を変える。あなたが見る世界を全く違うものにする。だから、今日という日は特別な日であるのだと語られるのです。
- あなたにとっては、今日はどんな日でしょうか？ 今日開かれた聖書のことばは、あなたに何を語ったのでしょうか。
- 実は、イエスさまの恵みに満ちた言葉を、ナザレの人々は、まずほめたものの、最後にはイエスさまに反発し、追い出し、殺そうとします。
- 語られた言葉は、あなたが耳にした言葉は、今日あなたの人生を変える力を持っている。あなたはどのようにそれに応答するのでしょうか。「今日」を、どのような日にするのでしょうか。お祈りしましょう。